

遺跡からの物体X

～個性豊かな逸品たち～

【展示期間】令和3年4月24日～6月27日

【展示場所】今治市中央図書館1階ロビー

■ はじめに

今治市では毎年遺跡の発掘調査を実施しており、調査で発見された多くの出土品を保管しています。その種類は多岐にわたりますが、中には全国的にも数が少ない珍しいものや、何に使ったのかはっきりしない奇妙なものも含まれています。今回の企画展ではそのような一風変わった出土品たちに注目して展示を行います。この展示を通して少しでも遺跡や文化財に興味を持っていただければ幸いです。



異彩を放つ弥生土器

◇鳥形浅鉢



▲ 鳥形浅鉢

弥生時代後期 高橋湯ノ窪遺跡



▲ 顔部分の拡大、目の痕跡？が残る



あさぼち
浅鉢という器に鳥形の装飾を付けた弥生土器です。摩滅^{こんせき}が著しく調整等ははっきりしませんが、目と考えられる痕跡が認められます。全体の形から鴨などの水鳥を模した可能性が考えられます。土製品で鳥を表現したものは珍しく全国的にも希少な例です。

◇ ジョッキ形土器



▲ ジョッキ形土器
弥生時代中期 高橋山崎遺跡



▲ 装飾が施された把手



ジョッキ形土器は、その名のとおり現代のビールジョッキに似た形をしています。平底で把手を付けたものが多く、底に台が付く場合もあります。愛媛では弥生時代中期頃に見られますが、用途ははっきりとしません。

弥生人の祈りのかたち

◇分銅形土製品



▲ 分銅形土製品 弥生時代中期 阿方中屋遺跡ほか

▼ 阿方中屋遺跡出土品

▼ 宮ヶ崎山形遺跡出土品



ふんどうがた どせいひん

分銅形土製品は弥生時代に作られた祭祀具と考えられています。護符や仮面のような使い方をしたとする説もありますが、はっきりとしたことは分かっていません。瀬戸内海周辺を中心に分布しており、弥生時代中期～後期の中四国における特徴的な遺物といえます。表面に文様を施し、中には顔を描くものもありますが、その表現方法は地域によって違いがあります。



▲ 愛媛最大級の分銅形土製品（実物大） 阿方瀧宮II遺跡

◇銅鐸形土製品



▲ 銅鐸形土製品

弥生時代中～後期 高橋山崎遺跡 ▼



（上から）

どうたくがた ど せいひん
銅鐸形土製品は銅鐸を土で象ったもの
かたど
です。近畿から九州にかけて分布して
います。四国、特に愛媛での発見例はほとんどありません。今治出土の
ものはかなり抽象化されたつくりや表現をしていて、この表現などから銅
鐸を知ってはいるが、間近で見たことはない人物によって作られたと推測で
きます。愛媛県では銅鐸そのものが四
国中央市でしか見つかっておらず、この
土製品も銅鐸が使われる地域から持
ち込まれたか、移動してきた人によつ
て作られた可能性が高いです。

古墳を飾る独自の土器

◇伊予型特殊器台



▲ 伊予型特殊器台

古墳時代初期 妙見山1号墳



▲ 妙見山1号墳



▲ 古墳からの眺望



▲ 綾杉文 A



▲ 綾杉文 B

い よ がたとくしゅ きだい
みょうけんさん
伊予型特殊器台は全国でも妙見山古墳でしか
見つかっていない独自の土器です。儀礼などの
際に古墳を飾る目的で古墳上に置かれていました。器台は壺などをのせるための台のことですが、妙見山古墳では器台の数が壺よりも多く、
器台単独でも使われていたようです。伊予型特
殊器台の特徴としてその形状が挙げられます。
胴部がまっすぐ立ち上がり、そこから上下が外
へ大きく開きます。高さも他地域のものと比べ
て低く全体的にどっしりとしたつくりをしてい
ます。これは、妙見山古墳が海に面しており強
風が吹くため、それに耐えられるよう工夫され
た結果と考えられています。また、胴部に施さ
れた文様も特徴的で、綾杉文、市松文、鍵手文、
弧帶文と呼ばれる文様があり、全部で8種類に
分かれます。これらの文様の中には弥生時代の
中予地方に系譜を辿れるものもあります。妙見
山古墳は初期古墳と呼ばれる前方後円墳やそれ
に伴う葬送儀礼が定型化する以前の古墳です。
そのため弥生時代以来の伝統を色濃く残してお
り、地域独自の要素が多く含まれています。伊
予型特殊器台はその最たるもので妙見山古墳の
特徴をよく反映した土器といえます。



▲ 市松文 A

異形の須恵器たち

◇ 坯付壺



▲ 坯付壺
古墳時代後期 佐礼4号墳



▲ 口部分の拡大

つきつつきば
环付壺は壺の上部分に横にした环身を取りつけた奇妙な形をしています。大きさは高さ 22.2 cm、最大径 13.5 cm を測ります。類例は少なく、全国でもわずかにしか発見されていませんが、似た形態の土器は韓国内でも確認されています。韓国での出土品も点数自体は少ないものの日本より事例が多く、朝鮮半島に由来をもつ土器と推測されます。周辺から見つかっている他の須恵器とは特徴が大きく異なっており、朝鮮半島、あるいは国内の他地域からの搬入品である可能性が高いと言えるでしょう。

◇鈴付椀



▲ 鈴付椀
古墳時代中期 玉川町小鴨部

すずつきわん とつて
鈴付椀は把手が付いたコーヒーカップ
状の椀の下に透かしの入った壺を取りつけた形状をしています。壺の中には1cm
ごとき
程の土玉が2つ入っており、土器を振るとカラカラと音がします。この土器は椀の形態的な特徴から初期須恵器と呼ばれる須恵器が日本に伝わって間もない時期に作られたものと考えられます。鈴付きの須恵器そのものが希少であることに加えて、この小鴨部出土品と同じ形状のものは他に例がなく、全国的にみても非常に珍しいものです。



▲ 壺の中の土玉

◇腹部把手付提瓶

さげべ
提瓶は液体用と考えられている容器です。通常は肩の部分に2つの把手を付けますが、この腹部把手付提瓶はなぜかお腹にも把手が付いています。本来の姿を考えると必要ないですが、何故把手を付けたのかは謎に包まれています。



▲ 腹部の把手



▲ 腹部把手付提瓶
古墳時代後期 玉川町八幡



大地に眠る古代の技術

◇製鉄炉



▲ 製鉄炉
飛鳥～奈良時代 高橋佐夜ノ谷II遺跡

たかはし さ や の たに せいてつ
高橋佐夜ノ谷II遺跡では古代の製鉄
ろ 爐が四国で初めて発見されました。約
はこがたろ
1,300 年前の箱形炉という製鉄炉で、
全体が鉄アレイ形をしています。この
種類の製鉄炉は国家主導で普及したと
考えられているもので、白村江の戦い
はくすきのえ / はくそんこう
いよこくふ
や伊予国府の設置といった国家的な出
来事をきっかけとして今治に導入され
た可能性が高く、当時の社会や製鉄技
でんば
術の伝播を示す非常に重要な資料です。



▲ 検出直後の製鉄炉

◇簾巻状羽口

製鉄炉に使われた送風機を輪、送風口をすまきじょうはぐちと羽口といいます。この羽口は簾巻状羽口といいう種類で表面に簾巻きで作られたような痕跡が残っていることからこのように呼ばれます。この羽口は平城京などの律令期の官営工房に特徴的に見られるもので、高橋佐夜ノ谷II遺跡の製鉄炉は国家主導で導入されたと考える根拠の一つとなっています。



▲ 簾巻状羽口

◇炉壁



▲ 炉壁

炉壁は被熱によって変色し、温度が低いほど黄色に近く、高温になるにつれて橙色、灰色と変化します。変色の度合いによって炉壁の内外を推測できるので、左の写真では上部が外側で下部が内側と判別できます。さらに、この炉壁は内面が発泡してガラス質になっているので炉の中でもより温度が高くなる下側の部分で使われていたことが分かります。

◇鐵滓



▲ 鐵滓



▲ 炉から流れ出る鐵滓

鐵滓は製鉄時に排出される不純物の塊です。ノロやスラグと呼ぶこともあります。砂鉄に含まれる不純物は高温で溶けるので、操業中に炉から流れ出ます。



■ おわりに

考古学は遺跡や出土品から当時の人々の生活や社会を考える学問です。そのなかでも出土品の観察は特に重要な位置を占めます。今回の展示では珍しいものや、変わったものを取り上げて展示しましたが、一体これは何だろうと興味をもって、考えながら物を見ることは考古学の基本であり醍醐味の一つです。

今回の企画展を通して今治でもこんなものが見つかっているんだと、歴史や文化財に興味をもっていただければ幸いです。

展示資料一覧

	名称	出土地点	時代		名称	出土地点	時代
1	鳥形浅鉢	高橋湯ノ窟遺跡	弥生中期	13	伊予型特殊器台	妙見山1号墳	古墳初期
2	ジョッキ形土器	高橋山崎遺跡	弥生中期	14	伊予型特殊器台	妙見山1号墳	古墳初期
3	ジョッキ形土器	高橋山崎遺跡	弥生中期	15	伊予型特殊器台	妙見山1号墳	古墳初期
4	ジョッキ形土器	高橋山崎遺跡	弥生中期	16	伊予型特殊器台	妙見山1号墳	古墳初期
5	分銅形土製品	阿方中屋遺跡	弥生中期	17	伊予型特殊器台	妙見山1号墳	古墳初期
6	分銅形土製品	阿方中屋遺跡	弥生中期	18	腹部把手付提瓶	玉川町八幡	古墳後期
7	分銅形土製品	阿方中屋遺跡	弥生中期	19	坏付壺	佐礼4号墳	古墳後期
8	分銅形土製品	宮ヶ崎山形遺跡	弥生中期	20	鈴付椀	玉川町小鶴部	古墳中期
9	分銅形土製品	阿方瀧宮II遺跡	弥生中期	21	台付俵形罐	高地栗谷1号墳	古墳後期
10	銅鐸形土製品	高橋山崎遺跡	弥生中～後期	22	簀巻状羽口	高橋佐夜ノ谷II遺跡	飛鳥～奈良時代
11	手焙形土器	松木広田遺跡	古墳前期	23	鉄滓	高橋佐夜ノ谷II遺跡	飛鳥～奈良時代
12	伊予型特殊器台	妙見山1号墳	古墳初期	24	炉壁	高橋佐夜ノ谷II遺跡	飛鳥～奈良時代

主な参考文献

- 今治市教育委員会 1999『高橋湯ノ窟遺跡II』今治市埋蔵文化財調査報告書第47集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2001『阿方中屋遺跡III』今治市埋蔵文化財調査報告書第62集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2002『高橋湯ノ窟遺跡－第3次調査－』今治市埋蔵文化財調査報告書第65集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2002『松木広田遺跡(松木遺跡群)I』今治市埋蔵文化財調査報告書第66集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2004『高橋山崎遺跡I』今治市埋蔵文化財調査報告書第72集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2007『高橋佐夜ノ谷II遺跡』今治市埋蔵文化財調査報告書第86集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2010『高地栗谷1号墳』今治市埋蔵文化財調査報告書第99集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2012『阿方頭王I遺跡 阿方頭王II遺跡 阿方瀧宮II遺跡 阿方大池内I遺跡 高地シ子ゴI号墳
高地シ子ゴI遺跡 高地シ子ゴII遺跡 高地池ノ奥I遺跡』今治市埋蔵文化財調査報告書第113集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2014『高橋山崎遺跡II』今治市埋蔵文化財調査報告書第124集 今治市教育委員会
今治市教育委員会 2018『宮ヶ崎山形遺跡－第2次調査－』今治市埋蔵文化財調査報告書第140集 今治市教育委員会
愛媛大学考古学研究室編 2006『鉄と古代国家～今治に刻まれた鉄の歴史～』愛媛大学考古学研究室、今治市、今治市教育委員会
愛媛大学考古学研究室編 2008『妙見山1号墳』今治市教育委員会
大塚初重・戸沢允則編 1996『最新日本考古学用語辞典』柏書房
正岡睦夫 1993『愛媛県玉川町出土の坏付壺と鈴付椀』『古文化談叢』第31集 九州古文化研究会
正岡睦夫 2003『今治市・越智郡の渡来系遺物』『遺跡』第40号 遺跡発行会
眞鍋修身 2002『愛媛県玉川町出土の提瓶二題』『遺跡』第39号 遺跡発行会